



徳島大学大学院工学研究科 村上・上月研究室 田代優秋



1. カワバタモロコの概要



分類	コイ目コイ科
国内分布	静岡県～九州北西部 日本固有種
県内分布	吉野川北岸下流域 鳴門市大津町のみ？
絶滅リスク	徳島県：絶滅 (2004年9月再発見) 環境庁：絶滅危惧 IB
生息場所	平野部の浅い池沼、 ため池、小川
産卵基質	表層近くの水草
産卵盛期	6月中旬～7月上旬
ふ化日数	水温 25℃で一昼夜

2. なぜ、大津町に残されたのか？

Point 1 昔から変わらない土水路がある

昭和 2 年(1927)の鳴門市大津町大代の土水路



(オニバス (1999) 三好昭一郎. 目で見る鳴門・板野の 100 年.)

平成 19 年(2007)の鳴門市大津町大代の土水路

→80 年間も変わらず土水路がある



2. なぜ、大津町に残されたのか？

Point 2 ハス田・水田と水路との連続性—低湿地帯



昭和 30 年代の鳴門市大津町段関の水田と水路の水位差

(れんこん洗いと荷づくり (1999) 三好昭一郎. 目で見る鳴門・板野の 100 年.)



平成 18 年(2006)の鳴門市大津町大代での水位差

→現在でも水位差はなく、ハス田・水田と水路が連続

3. なぜ、保全する必要があるのか？



Landsat 中間赤外カラー画像（2001年10月撮影）
（都市部が赤色，植生が緑色，水域が青色）

なぜ、カワバタモロコを保全しなければならないのか？

→昔から変わらない土水路やハス田・水田と水路との連続性が保たれている場所は、吉野川下流域を見渡してももうない。

→カワバタモロコとは、吉野川下流域において過去から現在まで良好な環境（低湿地帯）が維持されてきたことのシンボル。

では、カワバタモロコだけを守ればよいのか？

→カワバタモロコだけなら保護池や水族館で十分。

→カワバタモロコが生息できる環境を地域社会の中で守る。

じゃ、具体的にどうすればよいのか？

→みなさんと一緒にできることを考えていきましょう。

→地域住民と知識を共有し、カワバタモロコがいることの価値を見出したい。

カワバタモロコ



撮影 田代優秋

採取(調査)の状況



撮影 田代優秋

カワバタモロコの住む水路



カワバタモロコの住む水路(高速道路区域内)

